第 50 回酒害相談講習会　1 日目　　令和 4 年 7 月 5 日

アルコール依存症の歴史を振り返る

ひがし布施クリニック　　辻本士郎

① 18 世紀から 1965 年（昭和 40 年まで）　回復者ゼロの時代
慢性酒精中毒（アル中）は性格異常で治癒不能　社会防衛のために隔離収容
精神科不祥事件から、愛隣地区対策として強制長期入院　回転ドア現象
「やめさせてやる」試みはすべて失敗　多くの医療者はあきらめ

② 1966 年から 1975 年（昭和 50 年まで）　断酒会で酒をやめる人が出てきた
1966 年　近畿断酒連盟大阪断酒会誕生　浜寺病院
アル中の中でも断酒する人がいる　しかし単身者・女性はむつかしい
大阪では最初から地域ネットワーク構築を目指していた
1970 年　大阪アルコール問題研究所開設　和氣先生・小杉先生・今道先生
1975 年ころから大阪方式が根付く　大阪府部長矢内先生の支援
　治療導入は行政が　断酒会導入と断酒の動機づけは医療が　再発予防は断酒会が
連携して行う方式　「やめさせられないが仲間の力で止まる」

③ 1976 年から 1998 年（平成 10 年まで）　誰もが回復可能
1978 年　酒害相談講習会 1 回目　自彊館あすなろ会開始　第 10 回全国大会
愛隣地区からも回復者が　断酒会会員に良い刺激　単身者から学ぶ
各地に酒害対策懇話会などが誕生　断酒会員が中心に地域での回復を
「断酒には生活地域での長期にわたる一貫した支援が必要」
1981 年（昭和 56 年）　小杉クリニック・新生会病院開設
普遍的な治療をめざす　　自己決定を引き出す　外来と入院の相乗効果
1989 年（平成元年）　第 26 回全国大会に 7000 人が参加
各地でアメシスト会（女性酒害者の会）、虹の会（障碍を持つ人の会）など

④ 1999 年から 2022 年（令和 4 年まで）
1999 年　リカバリーハウスいちごが誕生　生活支援の視点　新大阪方式模索
2016 年　第 1 期アルコール健康障害対策基本計画制定　都道府県で推進計画
民間団体支援が明記される　基本法策定に断酒会会員が奔走
2021 年　第 2 期アルコール健康障害対策基本計画制定　SBIRTS が明記

⑤ これからの課題　生活者として当事者中心の支援を　自殺対策の柱
断酒会会員の減少対策　新入会員・家族会員の増加を　SBIRTS セミナー
治療ギャップ・自助グループギャップ・未治療期間ギャップの解消を
偏見の是正⇒誰もがなる脳の病気⇒誰もが回復可能　他の依存との交流
誤解がなくなると否認も少なくなる　糖尿病と同じ慢性疾患　病的飲酒渇望
ポストコロナを見据えて　酒害相談が自分＝断酒会の回復には大切
断酒会の中で自分の生きる意味を考えよう　他の酒害者に役立つことが自分の回復